

きゅう せつ き じ だい

1. 旧石器時代

はじめに：旧石器時代の自然や人の暮らし

国際理解
環境

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

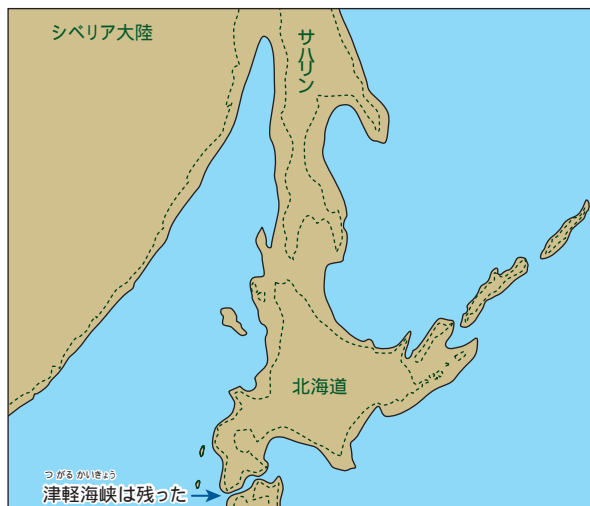
第5章 発展、今、そして未来へ

用語

さくいん



今のサハリン北部(ロシア)。約2万年前の十勝はこんなようだったのだろう。(写真:北澤 実氏)



海面が下がり、北海道は大陸からのびる半島の先だった。(『北海道の自然史』より、改変)

水量の少ない川

陸続きとなっていたシベリアから北海道へは、マンモスやバイソン(野牛)などがわたってきていました。

日高山脈には氷河がありましたが、平地には雪がほとんど降らず、山から流れ出す川は、氷河がとける夏の間しか水量がなかったといえます。

この季節には、海からのぼってきたサケやマスで川がいっぱいになりました。

今から2万4千年前には、十勝で人が暮らしていました。「旧石器時代」にあたります。

旧石器時代とは、「石器(石を割るなどして作った道具)」を使い、一方で、「土器(粘土を焼いて作った器)」を使わない時代です。十勝の旧石器時代は、1万年以上続きます。

この時代は、「最終氷期(およそ8万年前から始まり1万年前ころに終わるとも寒い時期)」の最中でした。

とくに、寒さが最もきびしかったおよそ2万年前の十勝は、年平均気温が今よりも6~9 くらい低かったといわれています。(p52)

このころの十勝平野は、グイマツ(カラマツの仲間)やハイマツの林がまばらにある草原でした。(p62)

大陸とつながっていた北海道

氷期は、陸上の水が1年中こおっている「氷河」が広がる時期です。2万年前ころには、日高山脈にも氷河がありました(p52)。

また、水が陸上でたくさんこおって海に流れこむ量が減るため、海水が減り海面が低くなります。海面が低くなると、海底だったところが陸になります。

そのため、少なくともおよそ7万年前からおよそ1万2千年前までの間、北海道はサハリンと、さらにシベリア大陸と陸続きになっていました(p62)。



写真はアメリカバイソン(おびひろ動物園)。約2万年前にはバイソンの仲間が北海道にもすんでいた。

1 最終氷期(さいしゅうひょうき): 氷期とは、現在より寒い気候が続く中緯度(ちゅういど)の非山岳地帯(ひさんがくちたい)に氷床(ひょうしょう: 5万km²以上の氷河)がある時期。氷期は過去に何度もあり、最近(約8万~1万年前)のものを最終氷

期という。(p52)

2 グイマツ: 今では、北海道には生育しておらず、北緯50°以北のサハリン、千島列島、シベリアに生育している。

シベリアから来た人々

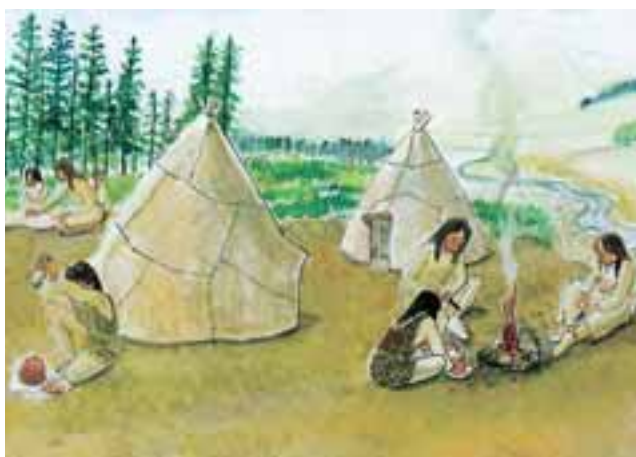
旧石器時代に十勝で暮らしていた人たちは、陸続きのシベリアからやってきたと考えられています。彼らは、シベリアのあまりの寒さからにげるために、移ってきたようです。

人々は、石器や骨角器（動物の骨や角で作った道具）などを使って、いろいろな種類の動物をとって暮らしていました。マンモスをとることもあったかも知れません。

動物たちはエサを求めて移動します。人々も、動物の群れを追って移動しながら生活していました。



ひょっとすると、このようにマンモスを沼に追いこむ狩りをしていたのかも知れない。帯広百年記念館の大型模型。



移動する暮らしのため、家はテントのようなものだった。
(想像図：帯広百年記念館蔵)

「キャンプ」での生活

移動しながらの暮らしであったため、旧石器時代の家は持ち運びができて組み立てやすい、テントのようなものでした。いわば「キャンプ」生活だったのです。

キャンプ地としては、段丘のふちや古砂丘（ p60）の上といった、川が近くを流れる高台が選ばれました。

当時は川が重要な「道」でした（その後もずっと、今から百年くらい前まで： p126、p175）。そして高台であれば、見晴らしがよく、えものである動物たちの動きがよくわかります。

また、こうした場所は水はけもよい場所であり、便利で快適な場所をキャンプ地として選んでいたのです。

大きな災害もあった

およそ1万8千年前のある日、十勝平野の中部から日高山脈の方を見上げた人がつぶやきました。

「何だ、あの黒い雲は」

黒い雲は空をおおい、やがて白っぽい砂が降り始め、あたりは、けむりが立ちこめたようになり、見通しが利かなくなりました（ここまでは空想です）。

支笏湖の北にある恵庭岳（千歳市）が大噴火を起こし、空高くふき上がった火山灰が西風（偏西風）に乗って、飛ばされてきたのでした（ p58）。

とくに寒く乾燥していた時期だったため、草木がなかなか生えません。芽室や帯広など十勝平野の中部には、数千年の間、砂漠が広がりました（ p58）。当時の人にとって、とても大きな「災害」でした。



帯広空港A遺跡（とちか帯広空港の南はし）で見られた約1万8千年前の恵庭火山灰。白っぽい中に黒いつぶ（鉱物）が混じるため「ごま塩」ともよばれる。

3 ハイマツ：今では、北海道では、主におよそ1,000m以上の高山に生育している。ただし、条件によってはもっと標高の低い場所にも生育する場合がある。
4 マンモスやバイソン：最終氷期には、マンモスやバイソン、ケサイ、トナカイ、オオ

ツノシカ、ヘラジカなどがシベリア地方に生きていて「マンモス動物群」といわれる。北海道内で見つかっている最終氷期の化石には、マンモスとオオツノシカがある（ p62）。

はものさいてきとがちいし せつき こくようせき
刃物に最適「十勝石」... 石器の材料「黒曜石」

十勝の石器の素材としては、「黒曜石」という石が最もよく使われます。いわゆる「十勝石」です。

この黒曜石は、火山活動でできたガラス質の石です（p33）。割ってできるうすい破へんがととてもすどく、加工もしやすいため、刃物を作るのにとでも便利です。

ただ、どこにでもあるわけではなく、十勝では十勝三股周辺（上土幌町）がおもな産地です。そこから川で運ばれるため、音更川・土幌川・居辺川・芽登川・美里別川などでは、河原の石として手に入れることもできます。

また、白滝（遠軽町）や置戸、赤井川の黒曜石で作られた石器が十勝で使われ、十勝産黒曜石の石器が道南の知内町にまで伝わっていました。旧石器時代にも、十勝と北海道内各地との間に広く交流があったのです。

この黒曜石の石器は、旧石器時代に続く「縄文時代」や「続縄文時代」にも作られ、使われ続けます。

（縄文時代 p84、続縄文時代 p100）



● 北海道内のおもな黒曜石産地。



黒曜石(十勝石)。



割った黒曜石。

せつき ぎじゅつかくしん きゅうせつきじだい
石器にも「技術革新」がある... 3つに分かれる十勝の旧石器時代

十勝の旧石器時代は、使われる石器の種類によって、おおよそ3つに分けることができます。

まず、2万年前より前の、形が整っていない小型の石器が作られていた、最も古い時期（p76）。

それから、およそ2万年前以降の「細石刃」という石器がたくさん作られる時期。細石刃は、はばが数mm～1cmくらい、長さが数cmのカッターナイフの刃のような形をしています。骨や木のじくにも何個もうめこんで、やり先などに使います（p78）。

その次が1万3千年前ころよりあと、細石刃が作

られなくなり、一方で、「有舌尖頭器（p80）」というやり先の石器などが使われるようになる時期です。

旧石器時代の中でも、だんだんと効率的に、また目的に合った石器を作る技術が生み出されているのです。その技術がよその場所に伝えられて広がり、さらに工夫されて新しい技術が生まれる... というように、「技術革新」と「情報伝達」がくり返されていきました。



はくへんせき 2
形が整っていない剥片石器
(2万4千年以上前)



さいせきじん せつき
細石刃という、小さな石器
(約1万6千年前)



ゆうぜつせんとうき せつき
有舌尖頭器という、やり先の石器
(約1万3千年前)

旧石器時代の石器は、時期によって変わっていく。

(石器・左右の写真：帯広百年記念館埋蔵文化財センター蔵：3)

1 黒曜石(こくようせき)：黒曜石の産地は、全国では大小約260カ所ある(『十勝の黒曜石』より)。蛍光X線分析(けいこうエックスせんぶんせき)という方法で、産地を推定することができる。

2 剥片(はくへん)：はがして作ったかけら。

3 帯広百年記念館埋蔵文化財センター(おびひろひやくねんきねんかんまいざうぶんかざいセンター)：帯広市西23条南4丁目26 電話 0155-41-8731 日・月曜日休館

黒曜石の作り方 ... 力だけではうまくできない

きけんなので注意

黒曜石は「火山ガラス⁴ (p33)」のひとつで、割ったかけらのふちがすどく、とてもよく切れる刃物になります。油断するとかたんに手や指を切ってしまいます。

また、飛びちる破へんが細かい上にこれもするどいので、目に入ると大変です。石器作りは、注意しておこないましょう。

黒曜石を割る時は、長そで・長ズボンにぼうしをかぶり、手には革手ぶくろ、目には保護メガネ(草かり用のゴーグルなど)をつけた方が安全に作業できます。マスクや作業用エプロンをつけると、より安全です。



石器作りのようす。あぶないので真剣に、右写真のように革手ぶくろやゴーグルをつけるとより安全にできる。

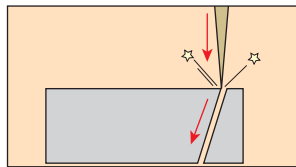
(左写真:北澤実氏、右写真:(財)十勝エコロジーパーク財団)

できれば「シカの角⁵」を用意

手ごろな石やかなづちをハンマーにして割ってもいいのですが、シカなどの角や骨の方が、たたいた力がゆるやかにおくまでとどくので、長い剥片(かけら)ができます。

力はななめに伝わる

石に伝わった力はななめに伝わります。ですから、入れたい割れ目に対して、ななめに力をあたえます。



まっすぐたたくと、ななめに割れる。

石を分割する・かけらを作る・形を整える

石器の作り方には、段階によっていくつかの方法があります。

まず、大きな原石は分割します。地面のもっと大きな石の上に置き、別の石を使って割ります。

続いて、分割したのから「かけら」を作ります。手で持ったり足でおさえたりして、石や角などの「ハンマー」でたたきます。角などをあてて別のハンマーでたたくと、正確に力を伝えられます。

さらに細かくていねいに細工するときには、角などをおしつけてこじり、はがすようにします。

肉を切ってみる

石器ができたら、肉を切ってみましょう。石器が思いどおりの形にできていなくても、その切れ味はおどろくほです。

ただし、細かい破へんがついていると切った肉を食べられなくなってしまうので、よく落としてから使しましょう。

くどいようですが、油断すると、かなりのケガをします。緊張して使ってください。



シカ角のハンマーなどの道具で石器作り。右はシカの角。



石器作り。大きな原石を分割。ハンマーでたたいたり、あててたたいて、かけらを作る。こじって細工する。

(参考『日本人はるかな旅展のウェブページ』、改変)



石器で肉を切る。

第1章 十勝の平野や川ができるまで

第2章 先史時代と川

第3章 アイヌ文化と川

第4章 十勝開拓と川

第5章 発展、そして未来へ

用語

さくいん

4 火山ガラス(かざんガラス): マグマが地上に出て急激に冷やされることなどによって、鉱物(こうぶつ)の結晶(けっしょう)を作らずに固まったものを火山ガラスという。

5 シカの角(シカのつの): 中でも春先に自然に落ちた「落角(らっかく・おちづの)」が固いのでハンマーとして向いている。